

農 業

昔から我が国は農業を国民の主な生業としてきた国で、昭和30年国勢調査の結果（1%推計）によつても、全国民の38%が農業を生活の手段としている。近年、日本の工業的地位が上昇してきたにもかかわらず、一方ではこのように対象的な農業に多くの人々が従事している事情は、イタリアに似ているといわれる。

しかし、耕地の状況をみると、我が国は狭い国土の多くを山岳地帯によつて占められているため、耕作可能地を最大限に利用しても総面積の14%を得るに過ぎず、従つて、少い土地で多くの収穫を得るためには、農作物の連作とともに農業経営の集約化を余儀なくされている。即ち、我が国の耕地1km² 当り農業従事者は355人に及び、イタリアの48人、オランダの70人、アメリカの4人等を比べて、驚異的に密集している。

さて、関東平野の南部に位置し、穏やかな気候と広大な沃野に恵まれた本県の農業をみると、経営耕地は17万町歩で県面積の34%、農家数は19万戸、農業従事者数は49万人となつている。このような規模をもつ本県は、全国有数の米の生産県であるとともに、東京、神奈川の消費地と直結する農作物供給県として、優利な条件を備えているので、将来は工業県であり且、農業県でもあるという特異な県となろう。

農家1戸当りの経営耕地面積は、昭和14年の1.2町から戦後の昭和22年には農地改革等により0.96町に減じたが、さらにその後、昭和31年には0.90町にまで零細化した。これは、農家の二、三男が分家する結果とも考えられ、現在でも小さい農家の経営規模が更に零細化され、兼業農家の増加となつて現われるのではなからうか。

本県の水陸稲収穫面積は10万町歩で、全耕地の60%を占めているだけに収穫高も昭和30年は278万石で、秋田、山形の穀倉県に続いている。

甘藷は年々1億3千万貫程度の収穫をあげ、全国第1位の生産県である。特に、昭和30年には1億6千万貫に及ぶ豊作で、近年最高の数量を示した。